

第42号

いしかわ 成人病予防センター だより

いしかわ成人病予防センターだより

第42号〔2020年〕

発行日 令和2年(2020年)2月発行
金沢市鞍月東2丁目6番地
電話(076)237-6262
FAX(076)238-9207
郵便番号 920-8201
郵便振替番号 00750-7-16352
E-mail smile@kenshin-ishikawa.or.jp
URL http://www.kenshin-ishikawa.or.jp/



写真提供：石川県観光連盟

ごあいさつ

公益財団法人

石川県成人病予防センター

理事長 素谷 宏

「健康診断は嘘をつく」「受けてはいけないがん検診」ショックン
グなタイトルが本屋の棚を賑わしています。検診業務を生業として
いる当センターにとっては逆風です。

1996年に慶応大学の近藤誠先生がお書きになった「患者よ、
がんと闘うな」がベストセラーになりました。

近藤先生は「健康診断やがん検診は、無意味どころか、むしろ有害。
健康な人に見つかる病気は治療しないほうが長生きできるとい
比較試験のデータが数多くある。」と主張、治療しなくてもよいがんを
「がんもどき」と名付け、がん検診のあり方に異議を唱え社会問題に
なりました。

あれから四半世紀、今も、がん検診に多くの批判がでています。

国は「がんで死なない為には、早期発見・早期治療のがん検診が
有効」とがん検診の必要性について政策を変えていません。

今行われているがん検診は「がんは放置すると死に至る」と言う前
提でなされています。しかし昨今がんの過剰診断が問題になってき
ています。問題なのは近藤先生が指摘した「がんもどき」が一定割
合で存在することにあります。「見つけなくてもよいものを見つけて
しまった」・「早く見つけすぎてしまった」等このようながんを治療
することが過剰診断にあたるのです。しかし今はまだ治療の必要
のないがんと治療を必要とするがんを区別する方法がないのが現状で
す。

集団として取り上げて考えれば「過剰診断で手術したがんが数多く
あります」と指摘されても個人で考えれば、がんが発見されれば、
自分のがんが過剰診断であると確定できないのであれば、治療して
もらうのが自然だと思えます。

今後、益々がん検診のあり方、存在そのものについても議論され
てきます。その為にも精度管理の行き届いた検診、科学的根拠に
基づいた検診、そして受診して頂いた方が来年も必ず受診して頂け
る接遇、結果通知の迅速化等々今できることに最善を尽くさなくて
はならないでしょう。

職員一同信賴して頂ける検診機関としてスキルアップに努めます
ので忌憚のないご意見よろしくお願ひ申し上げます。

胃バリウム検診を行うにあたって

検診スタッフに聞きました

今回は、私たち放射線技師が胃バリウム検診を行うにあたって受診者の方から寄せられる「疑問」について、検診会場の流れに沿った順序で解説をしていきたいと思います。

問診はなぜ必要ですか

検診を受診していただく目的は、現在の胃の状態、胃がん等の病気はないかどうかだと思います。現在過去の情報を、読影の際に参考にする事により正確な判定が出来るように必要とします。また、より安全に受診いただく事が出来るよう現在の身体的な状態も併せてお聴きしています。

更衣は必要ですか

画像に余分な物が写ると、胃の一部が見えなくなりやす。隠れた部分を極力なくし、胃全体を観察するためにお願いしています。ベルト、スカート等の金属・プラスチックの部分など小さいものでも支障がある場合がありますので、更衣をお願いします。

バリウムの量を減らすことは出来ませんか もう少し美味しくなりませんか

現在、飲んで頂く量は、胃バリウム検査を行うのに必要な最低限の量となっています。決して美味しいとは言えませんが、検査に必要な量ですので全量をお願いします。味については、美味しいもの、いい匂いのは使用は難しいです。理由としては、味覚・嗅覚によって胃液が分泌され、検査の妨げになる可能性が高いためです。これについては後に説明させていただきます。

胃を膨らませる粉（発泡剤）は どうして必要ですか

バリウム検査とは、胃の内側にバリウムを均一に塗布し、表面のひだ・凹凸を観察します。胃の細かい区画にもバリウムを附着させるために出来るだけ胃を膨らませる必要があります。また、観察できる範囲を広げることも併せて目的としています。しかし、どうしてもゲップがでてしまうことがあります。ゲップによって少なくなった状態にもよりますが、そのまま検査を続けることが困難な場合には、

もう一度発泡剤を飲んでいただくこともあります。

検査中に左右が分からなくなるのですが 左右を間違えると、どんな事が起こるのですか 素早く動く事が必要な理由はなんですか

私たちバリウム検査を行っている放射線技師もバリウム検査を受診する事があります。受診者に対して指示をし、検査中の流れは十分に理解しているにもかかわらず間違えることがあります。集団検診で一年に一度の受診で間違える事は仕方ありません。私たち放射線技師も間違えて動かれる受診者は珍しい事ではありませんので、間違えても慌てず焦らず動いていただければと思います。

間違えた場合に起こる事としては、胃の形にもよりますが、バリウムが胃を通り超えて小腸に流れてしまう事があります。小腸に流れたバリウムによって、胃が隠れてしまい、十分な観察が出来なくなることがあります。同じような理由で、回転していただく際にゆっくりの場合にも、小腸にバリウムが流れる事があります。

色々な動きの目的は何ですか また逆さのような状態になり怖いのですが

検査中の動きを「ジェットコースターに乗ってるようだ」と言われる受診者がいました。バリウム検査は先述しました通り、バリウムを胃の内側に附着させて観察します。胃の表面（内側）に胃液がある場合、バリウムが十分に附着しないため、まず胃液を洗い流す必要があります。その為、体を左右に向けたり、回転させたりします。また、バリウムがある場所は観察することが出来ませんので、目的の場所からバリウムを別の場所に移動させなければなりません。その為にも色々な方向に動いていただく事が必要となり逆さのような状態になる事があります。その際には落下防止用の肩当が下りてきますが、より安全に検査を行うため検査台の両側にある手すりをしっかりと握ってください。

検査後に下剤を飲むのはなぜですか

検査によって体に入ったバリウムを出来るだけ早く出していただく為です。長時間体内にあると、バリウムが固まって排出することが困難になる事で事故に繋がる恐れがあります。

ます。また、問診にもありますが日常的に便秘等がある方には追加の下剤をお渡しいたしますのでお申し出下さい。併せて、一緒にお渡しする説明リーフレットもお読みください。

バリウムが全部出たかどうか不安です

下剤の効き目には個人差がありますが、一般的には検査当日には便意を催し、遅くとも翌日にはほぼ排出されます。もし受診日を含めて3日経っても排便がない場合には、当センターでは速やかに医療機関への受診をお願いいたします。不安に思われる方は、当センターにご連絡ください。以上、受診者の方から実際にいただいた疑問質問にお答えさせていただきました。さらに疑問質問等がございましたら、お気軽にご連絡いただきたいと思います。

検査に関する内容についてご理解いただき、苦痛の少ない、安全で安心な検査、正確な結果をお渡しできる検査を行うことが出来るよう、これからも努力研鑽をまいります。と思っておりますので宜しくお願いいたします。



デジタル胃がん検診車



小松市
こまつし
KOMATSU CITY

わが町のがん検診

小松市 保健師 畠山 真紀

写真提供：石川県観光連盟

市の概要

小松市は石川県の西南部、加賀平野のほぼ中央部に位置し、東は霊峰白山がそびえ、その裾野には緑の丘陵地、そして田園、平野が広がり、それを縫うように梯川が流れ、安宅の海に注いでいます。

また、歌舞伎十八番「勸進帳」の舞台として有名な「安宅の関」、250年余りの歴史を誇り、日本三大子ども歌舞伎の一つが演じられる「お旅まつり」、泰澄大師により発見されたと言われる北陸最古の名湯「粟津温泉」などがあります。

面積は3771.05km²、令和2年1月1日現在の人口は108,276人であり、年少人口が占める割合は13.1%（14,199人）、高齢者人口は28.2%（30,490人）と少子高齢化が進んでいます。

死亡数においては、ここ数年1,100人前後で推移していますが、そのうちがんによる死亡者数は年間約300人で、全死亡者数の26.29%を占めており、国と同様、死因の第1位となっています。

小松市のがん検診と受診率

種 類：胃、肺、大腸、乳、子宮頸、前立腺
実施期間…(集団)6月～12月 各町の公民館等で実施
(医療機関) 胃内視鏡 (6～10月)
乳、子宮頸 (6～11月)
前立腺 (6～10月)

平成28～30年度の受診率は図1のとおりです。いずれのがん検診も国が目標としている受診率50%には届いていない状況となっています。

がん検診受診率向上の取り組み

◆検診の体制

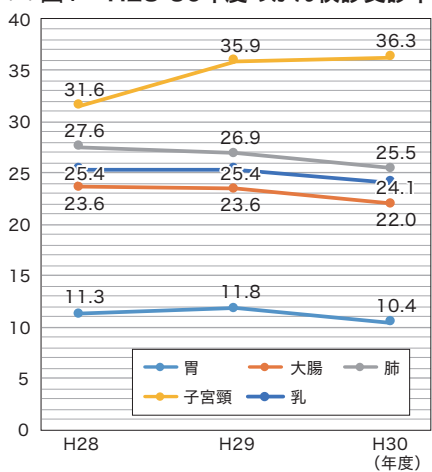
・各町内・地区公民館等における胃、大腸、肺、子宮、乳がん検診の実施

◆受診勧奨及び周知

- ・全世帯にがん検診のお知らせを送付
- ・広報、ホームページ掲載
- ・SNSでの周知
- ・けんこう推進委員さんによる町ごとの町内放送の実施(年数回)
- ・町内会へのチラシの班回覧
- ・市内医療機関、浴場組合でのポスター掲示
- ・ラジオ、新聞での呼びかけ
- ・市のイベント等での受診率向上キャンペーンの実施

毎年、がん検診の受診率向上対策として様々な取り組みを行っています。今年度はピンクリボンキャンペーンの一環で、市内の大型商業施設にて県や健康づくり応援企業と一緒に女性がん検診の啓発(チラシの配布や乳房触知モデルの触診体験)を行っ

図1 H28-30年度のがん検診受診率



H28-30年度 がん検診受診率(%)

	胃	大腸	肺	子宮頸	乳
H28	11.3	23.6	27.6	31.6	25.4
H29	11.8	23.5	26.9	35.9	25.4
H30	10.4	22.0	25.5	36.3	24.1

要精密検査受診者の受診状況と取り組み

ここ数年の要精密検査の受診状況は、表1のとおりです。国が掲げる目標値90%を達成しているのは乳がんのみとなっています。

本市では、ハイグレード判定された方については至急訪問にて受診勧奨をしています。また、精密未受診者については、お手紙での受診勧奨を行い、まだなお未受診である場合には家庭訪問にて再度の受診勧奨を行っています。

毎年、市のがん検診では40人以上のがんが発見されています。がんによる死亡数を減らすためにも今後がん検診の受診率向上と全体的ながんの精密検査受診率100%に近づけるように、成人病予防センターの方々と協力しながら取り組んでいきます。

表1 精密検査受診率とがん発見者数

		平成28年度	平成29年度	平成30年度
		精密検査受診率(%)	89.5	87.7
胃がん (H29～内視鏡検査)	がん発見者数(人)	7	6	9
	精密検査受診率(%)	87.2	86.6	89.7
肺がん	がん発見者数(人)	10	12	7
	精密検査受診率(%)	82.2	80.4	83.1
大腸がん	がん発見者数(人)	15	18	15
	精密検査受診率(%)	86.9	90.7	88.2
子宮頸がん	がん発見者数(人)	1	1	3
	精密検査受診率(%)	96.6	97.7	92.7
乳がん	がん発見者数(人)	8	9	8

はじめまして！ フレッシュマンです

私たちのセンターの

ONE TEAMで勝つ

専務理事就任に寄せて

よしの
吉野 隆
たかし

昨年4月に当センターの事務局長、さらに6月に専務理事に就任し、経営全般を総括しております。

石川県も本格的な人口減少時代を迎え、当センターが実施している胃がん検診の受診者が減少するなど、経営環境は厳しいものがあります。

しかしながら、公益財団法人として質の高い検診サービスを県民の皆様方に安定的に提供するとともに、がんを含め生活習慣病や結核の予防について普及啓発していくことが当センターには強く求められています。

先日、各市町の担当の皆様方とお話する機会をいただきましたが、当センターが実施している集団検診の果たす役割が大きいことを改めて実感したところでもあります。

また日本対がん協会石川県支部として、去る9月のがん征圧月間には、ピンクリボンプロジェクトやリー・フォー・ライフ・ジャパンなどを通じ、がん検診の大切さを県民の皆様方にお伝えしたところであります。

さらに、約80年の歴史を誇る結核予防会石川県支部として、石川県結核予防婦人会と連携し結核予防の大切さを訴えるとともに、結核予防啓発キャンペーンや国際協力等への募金活動である複十字シール運動活動を例年8月から12月に行っております。



こうした事業を長期にしっかりと実施し、県民の皆様方の健康な暮らしを実現化することが当センターの使命であり、そのためには経営基盤の安定が必須と考えております。

現在、サービス向上と経営の効率化に向け、職員一同取り組んでおり、ONE TEAMで厳しい経営環境に打ち勝つていくため、微力ではございますが私も精一杯汗を流したいと決意しているところであります。

これまで当センターを支えていただいた会員の皆様方、さらに県、市町、医師会、大学等関係機関の皆様方、そして検診を受けていただいている事業所、県民の皆様方には、引き続き温かなご支援をお願いし、ご挨拶いたします。

わかばやし あや の 保健師 若林 彩乃

- ① 出身地：石川県能美市
- ② 趣味：犬と遊ぶ、ショッピング、旅行、映画・音楽鑑賞、サックスを吹くこと
- ③ 特技：たくさん寝ること
- ④ 好きな食べ物：いちご大福
- ⑤ メッセージ：

こんにちは。私は健診や特定保健指導、がん検診啓発普及の業務に携わっています。2019年3月に大学を卒業したばかりで社会人としても保健師としてもまだまだ未熟ですが、日々の業務の中でセンター内のみならず、受診者の皆様をはじめとする関わりのある全ての方々から多くのことを学ぶ機会を頂いております。ありがとうございます。

今後の人生を自分らしく楽しく生きていくためには、心も身体も共に『健康』であるということは重要であり、昨今では健康寿命の延伸に向けて国を挙げてさまざまな取り組みが行われています。私が日々行っている業務もこの取り組みと大きく関わっていると思います。今後もこのことを忘れず、県民の皆様の健康のために日々の業務に邁進してまいります。さて、『健康』を保持する為には疾病の予防・早期発見を図ることが重要ですが、具体的にはどうのことだと考えますか？あなたの考えたことがたとえ小さなことでも、それを継続することが初めの一歩だと思います。私も頑張ります！

